

「自由人でありたい」という願望が強過ぎるのかな(^\_-)

ある宗派を信仰するメル友から、「もちろん、信仰は自由です。無視して下さっていいようにかまいません。」との前提で、集いに顔を出して一度話を聞いてみない？との声かけのメール。

どうしてか自分は、大学時代から今まで、色んな宗派、信条派の方から声をかけられることが多い。

いつもの厚かましきで、次のように返信した。

【 お誘いの声かけ、ありがとうございます。】

キリスト教や仏教の各宗派、また、左翼系の各信条派の知人、友人も結構いましたので、話を聞かされ、集いに誘われたことも。

あれこれちょっとですが触れてなお、自分は「無宗教という宗派」であり、敢えて云えば「人間教(?)」です。周りはこんな自分を「阿部節(?)」、「阿部ワールド(?)」とか揶揄しているようです。

ある宗派、信条派を信じるも信じないも、その人という人間の心のなせる業。自分はそうした共通する人間の心の業に関心があります。

ある宗派、信条派に関わると、折角共通する一人一人の人間としての話をしてるのに、「あの宗派、信条派に関わっている人だから…」と色眼鏡で見られ、折角の互いに人間としての共通の話をしてるのに、耳をかされないこともあり得ます。ですから、自分はある宗派、信条派に出入りすることには、極力避けてきました。

こうした姿勢ですと、どんな宗派、信条派の人とも、まず一人の人間として話し合えませぬものね。もちろん、あなたとも。

以上が、自分が人と係わり合うスタンスです。】

もちろん信仰、信条の自由はあるので、そのことをあれこれ云うつもりは毛頭ない。

だが、その人がどう解釈・納得して、その人なりの言葉でどう話し、日々の生きようを見てもらうしかないのではないかなあと思っている。

そこには、宗教、信条を持ち出さなくても、互いに一人の人間同士として話し合い、助け合うことは可能でないかなあと思っている。

(現に、素敵な生きようをされおり、後でその方が信仰心のある方と分かったこともしばしば。)

このところが、色んな宗派、信条派の人から試しに声をかけられ、はたまた周りから「阿部節(?)」と揶揄される所以かな??

(2006年12月17日 記)